

戦後70年の節目の年。安倍晋三首相は終戦記念日の8月15日に新たな談話を発表する意向だそうだが、それがどんな内容になるか。今年の大きな政治テーマでもある。

以前本欄で触れたことがあるが、私は1995年8月15日、戦後50年に際し、当時の村山富市首相(自民、社会、さきがけ連立内閣)が出した「村山談話」に関して、その日の夕刊でこんな冷ややかな解説記事を書いた。「社会党首相として、節目の年にかける意気込みを感じることはできる。しかし……」「アジア諸国

### 熱血!

# 与良政談

与良正男

などが、どう評価するかは不透明と言わざるを得ない」と。

ご存じの通り、村山談話は先の大戦を「国策の誤り」と断じて、戦前の日本による植民地支配と侵略によ

ただし、談話発表のしばらく前には自民党のベテラン閣僚が「侵略かどうかは考え方の問題」と発言して物議をかもし、談話を閣議決定した直後も別の自民閣僚が一閣内にあ

## 反「反知性主義」

ってアジア諸国の人々に対して多大の損害と苦痛を与えた、と明確に謝罪したものだ。その歴史的な意義をもっときちんと評価すべきだ。たと今、悔いが残っている。

る限りは批判は避ける」とあっけらかんと語ったのも忘れない。自分とは同意していないというわけだ。これではいくら「心からおわび」と言っても通じないと私は考えたのだ。



あれから20年。先の大戦をどうとらえるかという問題はなお決着しない。私の見立て通りになったというより、むしろ、日中、日韓関係がこ

る。安倍首相は村山談話について「全体として引き継ぐ」と語っているが、首相に近い議員は「今年は日本の名譽回復元年に」と主張しているという。名譽? 私は戦後日本が戦争を反省し、平和国家を貫いてきたところを名譽だと思ってきたが、どうやらそれが当たり前の考え方だとは見なされない時代になった。

元外務省主任分析官、佐藤優氏は自分に都合がいいように世界や歴史を理解する態度を「反知性主義」と呼ぶ。私も「反知性的風潮」と戦う年としたい。(専門編集委員)

中が来ようとは想像もできなかったというのが率直な思いだ。

今回は戦後生まれの国会議員がもう9割以上を占める中で、談話とな

これまで悪化し、反中・嫌韓ムードが広がってヘイトスピーチまで飛び交う世の